研修名　保護者支援・子育て支援
令和元年１２月６日（金）９：４５～１２：１５
講義・演習　「保護者に対する相談援助の方法と技術」
講　師　　桜花学園大学　　教授　小嶋　玲子　氏

１　講演要旨

１）目標
①保育者自身がしてきた保護者に対する相談援助の方法、技術を振り返り、理論的に整理し、自覚化する
②保育者自身が持っている保護者に対する相談援助の方法、技術をスキルアップし見通しをもって計画的に援助ができるようになる

※支援という言葉は利用者主体であり、システムとしての援助に使う。援助という言葉は援助者主体であり、具体的な個別対応、個人での援助に使う。

２）≪未来の子どもたちを育てるには≫
時代を生きて働く知識、技術、そして未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性。学び方としては、主体的、対話的で、深い学びが必要となる。（学習指導要録が変わる。２１世紀バージョンへの転換である。）これらは、保護者も保育者も資質の能力を備えていかなければならない。
・保護者が支援を求めている子育てにおいては、保護者の気持ちを受け止め、子育てに関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指す。安定した親子関係が築かれ、保護者の養育力の向上につながる事を目指して、保育の専門的知識・技術を背景としながら行うもの。
・保育士の求められる主な知識・技術は①成長、発達を援助する②生活援助③保育環境を構成④遊びを豊かに展開⑤関係構築⑥保護者等への相談、助言である。これらの知識や技術は助言や情報提供、行動見本の提示等に組み合わせ、活用することが大切になる。
＜相談・助言・相談援助＞
・相談とは…問題の解決のために話し合ったり、他人の意見を聞いたりすること。またその話し合い、本人の主体性の尊重。自己決定の尊重、当事者主体。
・助言とは…助けになるような見解や言葉を傍から言ってやること。またその言葉。
・相談援助とは…話し合いを通して得た情報を基に話し合い以外の方法を使って援助すること。
＜相談の方法は一つではない。多様な応じ方を学ぶ。＞
✤話し合い以外の援助の方法は？
クラスだよりに親子の遊びなどイラストで描く、親子の触れ合いあそびを提示する、クッキングやふれあい遊びの書を置いておく、子育ての書ばこに置いておく　　等
✤保護者が支援と思わないところでも多様な支援がある
送迎時の会話、行事（クラス参観、運動会等）、お便り帳、掲示物　　等
＜相談において最も重視されることは傾聴である＞

傾聴の重要性は、話し手が自ら解決策を見つけていく。主体性を尊重し、自己決定を尊重する。又、自分が大切にされていると感じると、心の安定につながる。話は放す、離すに通じる。じっくり話を聞いてもらうことで自分の考えや思いを明確にでき、解決策を思いついたりできる。話し手の情報を聴き手が得ることで、適切な対応がとれる。
＜きくの違いを理解する＞
「聞く」とは一般的なきくこと。「聴く」とは身を入れてきくこと。「訊く」とは尋ねること。
※何故と聞かれると自己肯定の低い人は、叱責と捉えられることもあるので注意する。
＜助言の注意点＞
・その人の助けになることが条件。客観的には適切な助言であっても、その人の助けにならなければならない。
・助言でなくアイデアを出し合い良い方法を一緒に考える関係づくりをする
・すでに受けた助言を尋ねる。同じ相談を受けたらどう言われるかを考える
※助言は行動教唆になりやすい。助言者の思いが優先する。表現方法としては「～した方が良いです」「～すべきです」「～の方法を試してみてはいかがですか」「～することで改善された方もいます」等注意する。こういった表現は子どもに話しかけるように母親に話した方が良い。例）「ママ、〇〇してくれると嬉しいよね」等
＜話をする場所＞
・静かな場所に移る
→メリット：お互い呼吸を置いて落ち着ける。じっくりと話を伺うという気持ちが示せる。人の出入りや電話で中断することはないので、落ち着いて話し合うことができる。
・場所や位置を考える
例）相手が座る場所、位置から見える物への配慮。
　　周りの子どもや保護者を不安にさせないように人目のつかないところで話す等。
☆保護者と保育者の位置関係が大切。相手としっかり向き合う。

２　感想

子を育てる上で保護者の抱えている悩みは多いと思います。関わり方やしつけなど、また子育て以外にも生活する上で夫婦でのこと、疾病、経済的困難など。そのために、保育園に対応を求められる相談もあります。ここで言われたように傾聴することが最も大切なことだと思います。相手を尊重する。理解する。しかし、まだまだ「～した方が良いですよ」「～の方法もありますよ」と援助者の思いが優先する場面があると思うので、心していかなければならないと思いました。相談事は保護者と共有し、一緒に確認し、継続していくことでフォローアップし相談してよかったと思えるようにしていかなければならないとと思います。介入の仕方は難しいと思うので、保育士に求められる主要な知識・技術を身に着け、記録をしっかりと取り、保護者と共に振り返りをして、保護者が親としての自信を持ち、保育者と保護者の協力の元、子どもたちの育ちを支えていくことができるように、私も保護者と共に子どもの援助者、支援者になれることを目指したいと思います。研修ありがとうございました。

（記録　認定こども園松井ヶ丘保育園　山口真砂美）